

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200096
法人名	有限会社アズ
事業所名	グループホーム あんず
所在地	高崎市新町3148番地 (電話) 0274-42-7448

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成21年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 1,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保医院、野中病院、関口歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、文化ホール、幼稚園、市役所支所、保健センター、消防署等が建ち並ぶ市街地に立地している。木造平屋造りのホームは、玄関ポーチに季節の花が植えられたプランターが置かれ、ホールには母の日のカーネーションの鉢が飾られている。入居者の8割は地域の方であり、家族の訪問も多く、近隣を散歩して地域の方と挨拶を交わしている。職員は入居者と一緒に食材を購入をし、旬の野菜を使い、味、色彩、カロリー等を考えた食事を提供している。また、バイタルサインのチェック、食事の摂取状態、排泄等の心身の健康状態の管理をして、変化に対応している。入居者は、テレビ観賞や歌の好きな方は歌ったり、会話を楽しんだり、月1回の外食や季節の花見を楽しみ、表情豊かである。職員は、入居者の一人ひとりの思いを大切にケアに配慮し、熱意を持って理念の実践に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価を受けて、「あんず便り」を発行し、一人ひとりの健康状態や暮らしぶり等を掲載し、家族へ報告している。介護計画の見直しでは、ホーム独自のモニタリングシートを作成し、入居者の変化に対応した介護計画を作成する等具体的な取り組みをしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と管理者は評価の意義を理解し、自己評価は職員の意見を聞き管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。ホームの利用状況、行事や運営報告、評価結果報告がなされている。毎回全家族に会議開催の案内をし、毎回家族の出席があり、家族からの質問に行政が答えたり意見交換がなされ、家族の意見を運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には言葉をかけて意見や要望を聞き、会議で検討をしている。また、昨年は各家族にアンケートを実施している。苦情相談窓口は入居時に説明し、重要事項説明書に明記し、掲示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、区長が広報やその他の地域情報を届けてくれ、地域の情報を得ている。また、ホーム前の文化ホールの催し物の案内や地域サロンのお誘いを頂いたりしている。天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わしている。しかし、地域との交流が消極的だったので、小学校や幼稚園の運動会に参加出来るように学校に働きかけたり、ボランティアや家族の協力を得て積極的に地域の行事等に参加して行きたいと考えており、今後期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者は、訪問介護の仕事に携わり、理想とする認知症ケアをしたいと考え、平成19年に出身地に開設し、理念について職員と共に考えて、「地元に基づいた、より家庭的な生活と安心な場所を提供し、一人ひとりの可能性を見出し、質の高いケアをする」を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は新入職員に説明をし、職員は会議等の折に理念について話しあっている。日々の介護のなかで、理念にそって一人ひとりの生活を大切に、その人のペースでその人らしく過ごされるようなレクリエーション、話題提供等の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の情報は広報と区長より得ている。入居者は散歩に出かけて近隣の方と挨拶を交わしたり、近隣の特別養護老人ホームの納涼祭や花火大会に招待され参加している。ホーム前の文化ホールでの音楽会や高齢者の地域サロンに誘われているが、出席していない。	○	地域の方との交流を深められるようにホームの行事等に招待したり、地域に出かけられるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者は自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価は職員の個々の報告を管理者がまとめている。外部評価を受けて、「あんず便り」を4月から発行し家族に配布する等取り組んでいる。何事も出来ないではなく、出来るよう前向きに取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用状況、運営や行事報告、入居者の問題等を議題にしている。入居者の全家庭に開催案内をしており、毎回出席される家族もある。グループホームの説明やケアのあり方、重度化や看取り等について話し合わせ、家族の希望や意見も出され、そこでの意見を運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の問題や解からない事が生じると、支所が近隣にあるので、直ぐに担当者や相談をしたり情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に暮らしぶりや健康状態を報告していたが、来られない家族もあり、今年度から「あんず便り」を発行し一人ひとりの暮らしぶり、健康状態、行事、職員の異動等を掲載して各家庭に伝えている。健康等の急な変化については、電話で報告をしている。金銭については、必要時家族に了解を得て立替ておき、領収書を提示して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年家族にアンケートを実施したが特に意見等がなく、家族の方と顔を合わせて話をすることが大切と管理者は考え、家族の訪問時には声をかけて意見要望等を聞いている。「苦情相談窓口」は重要事項説明書に明記し、事務室前に掲示し入居時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時には、ホームの代表兼ケアマネジャーが頻回にホームに来たり、馴染みの訪問介護事業所のホームヘルパーが来て話すことで安心してもらえるよう支援している。新入職員には入居者の方と早く信頼関係を築く為にコミュニケーションを多く持つよう指導し、先輩職員は新人をフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、県主催の新人研修会、群馬県抑制廃止研究会等に出席し、報告書を作成して会議で報告をしている。研修報告書はファイルされ、職員がいつでも見られるようにしている。ホーム内勉強会(介護技術等)も行われ、新入職員は先輩の職員からトレーニングを受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム開所時、職員は他ホームや特別養護老人ホームで研修を受けている。ケアマネジャーは、新町ケアマネジャー研究会に参加し情報交換をしている。しかし、職員は同業者との交流が少ない。今年度から地域密着型サービス連絡協議会に加入予定であり、職員には他ホームとの交換訪問や勉強会等の活動をさせていきたいと考えている。	○	職員が同業者との交流を持ち、勉強会や他ホームとの交換訪問等の活動を通じて、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流が行われることに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学して雰囲気を知ってもらい、納得して入居して頂けるようにしている。ケアマネジャーが自宅を訪問して顔馴染みになり、家族と相談をして使い慣れたものを持ち込んだりしながら、本人が安心感を持ってもらうように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、洗濯物干しや掃除、季節行事にはお好み焼きを焼いたり、おやつを買いに出かけるなど職員と一緒にこなしている。職員は、入居者に悩み相談にのってもらう等支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とコミュニケーションをとり、自宅で食事を取りたい、帰りたい、洋服が欲しい、皆でビールを飲みたい等の希望には、職員と本人で話し合っている。また、日常の会話から本人の意向や思いを汲み取り、困難な場合には家族と相談し本人本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために本人や家族から要望を聞き、申し送りや連絡帳等からも情報を得て、毎月の会議で話し合いをしている。ケアマネジャーは介護プランを作成し、家族に了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の担当職員は、モニタリングシートに気づいた事を書き込み、毎月の会議で2ヶ月毎のモニタリングを参考に話し合いをしている。期間前に変化があると、その場で家族に連絡し、随時見直しを行ない現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診時、家族に代わって職員が受診に同行し状態を家族に報告している。2ヶ月毎に近隣の美容院の美容訪問があり、希望する方はカットができる。時には隣接する訪問介護の事業所にお茶を飲みに出かける等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望により入居以前からのかかりつけ医となっている。主治医が月1回往診に見え、近隣の薬局に処方箋をFAXし、薬を届けてもらうようにしている。また協力医が月2回往診に見え、日々の健康相談をしている。近隣に歯科医もあり、必要時には往診もしてもらえるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望により終末期のケアが可能な状態までホームで対応しており、入居時にホームででき得る最大のケアについて説明している。急変時は、家族や医師に連絡し、救急車で入院対応としている。重度化や終末期について、家族・かかりつけ医・ホームで話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導等の言葉かけや対応に配慮し、職員同士で誇りやプライバシーを損ねる不適切な言葉かけを注意しあっている。個人の記録等は、他の方が目に触れない事務所に保管し、職員は採用時に個人情報保護法の秘密保持の遵守を誓約している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の体調や気持ちを大切にしている。居室で過ごしたい入居者には、見守りや無理強いせずそっと声をかけたりして、その方のペースで過ごして頂けるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材購入に出かけ好みの物を買ってきたり、テーブル拭きやえんどう豆の筋取り等の下拵えをしたり、毎食前の嚙下体操を職員と一緒にしている。納豆を好まない入居者には甘く煮た豆に替えたり、好みの食事を提供している。食事介助の必要な入居者の介助をしながら言葉をかけ、食事が楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により火曜日を除き毎日入浴でき、1人平均週3日の入浴回数となっている。入居者には一人ずつゆっくりと入浴をして頂き、拒否する入居者には言葉かけを工夫し、タイミングをずらして対応をしている。入浴しない入居者には、清拭をしている。また、季節の菖蒲湯や柚子湯で楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、掃除、雑巾縫い、花の水遣り、テーブル拭き、お茶だし等をして頂いている。また、テレビ観賞、風船バレーや塗り絵等を職員と一緒に楽しんだり、月1回の外食や季節の花見に出かけ気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近隣の散歩やホーム建物の周りを歩いている。散歩後に隣接する訪問介護の事務所に立ち寄り、そこでホームヘルパーの方と一緒にお茶を飲んだり、食材の購入に職員と一緒に買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間を除いて玄関・ホールのガラス戸の施錠はしていない。入居者が、ホールから自由に外に出てホーム建物の周りを一周したりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の指導の下で入居者と一緒に行い、消火法等の指導を受けている。ホーム前のアパートの住人や隣接する訪問介護事業所等へ災害協力依頼をしており、運営推進会議の折に地域への協力体制の依頼をしている。また、職員の住居がホームの近隣にあり、直ぐに駆けつけられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は全入居者の方、水分摂取量は必要のある方をチェックしている。毎月体重の増減をチェックし、その情報を共有している。一人ひとりの体調に合わせて、普通食、きざみ食、流動食に栄養剤ドリンク等を提供し、便秘の方には寒天ゼリー(寒天+スポーツドリンク)を提供している。献立表は作成はしていないが、1200~1600カロリーを目安に入居者の希望を聞き旬の食材を使い作成している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には長椅子が置かれ、腰をかけて履き物が履けるようになっている。要所要所に手摺りがあり、ホールの床は木製で床暖房が完備されている。ホールには、テレビが置かれ、それを囲むようにソファが2つ並び入居者が会話を楽しめるように工夫されている。ホールに続く厨房からは、ご飯の炊ける匂いを感じられ、カーネーションの鉢や鯉のぼりが飾られていて生活感や季節感を採り入れている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には箆笥、テレビ、椅子等が持ち込まれて、絵の好きな入居者は絵画を飾られたり、洋服やスカーフが居室の隅にかけられたりしている。生活スタイルに合わせての配慮をし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		